

IKUOがハイパー・エフェクターを試奏!

ベース用マルチ・エフェクター編 ～デジテック BP355の機能に驚愕!?



〈ベース用マルチ・エフェクター&USBオーディオ・インターフェイス〉

DigiTech BP355 ¥29,400

■エディットに便利なマトリックス

◎音作りの時に便利なのが、このマトリックス表示だ。エディットの際、プリセットで使用されているエフェクトがLEDで点灯し、横列のパラメーターが、下のツマミに対応しているので操作が容易だ。

■練習に便利な ドラム・マシン装備

◎BP355には、60パターンのドラムと、5パターンのメトロノームが搭載されている。ベーシストには不可欠なリズム練習が、いろいろなリズム・パターンのできるぞ!

直感的な操作は アナログ感覚

◎マルチ・エフェクターという、多彩な音作りができるぶん、どうしても操作が難しくなってしまう。しかし、BP355は、マトリックス画面と、このノブによりアナログ的な操作感を実現してくれている。ツマミを回すと、LEDに何をエディットしているのかも表示される



■ワームを搭載

◎デジテックが開発したワーム・ペダルも、もちろん搭載。現在は、ベース用ワームが発売されていないので、ベーシストにとっては、かなり貴重なモデルだ。IKUO自身も、“これだけでも買う価値がありますよ!”とのこと。

■合計140プリセット

◎実戦で使える、あらかじめセッティングされたファクトリー・プリセットが70。そして、自分でエディットした音色を記憶できるユーザー・プリセットが70。合計140ものプリセットが可能。呼び出すのは、中央と左側のフット・スイッチだ。

■バイパス&チューナー・モード

◎中央と左のフット・スイッチを同時に押すとバイパス・モードになる。また、2秒以上押し続けるとチューナー・モードが起動する。



■ルーパー機能も装備

◎弾いたフレーズを、その場で最長20秒間録音できるルーパー機能も搭載している。右のフット・スイッチを2秒以上押し続けるとルーパーが起動し、フレーズを演奏し始めると自動的に録音がスタートする。

■付属のCubase LEを使って、 すぐにPC録音が可能

◎もはや、マルチ・エフェクターに欠かせないオーディオ・インターフェイスとしての機能も、もちろん搭載。DAWソフト“CUBASE LE4”が付属しているので、PCとUSB接続することで、すぐにDTMが始められるぞ。



↑CUBASE LE4の画面。BP355からダイレクトにPC録音が可能になる。ベース用オーディオ・インターフェイスは、かなり貴重なモデル!?



〈スペック〉 ●CDクオリティなオリジナルAudio DNA2カスタム・オーディオDSPチップ搭載 ●140プリセット(ファクトリー70/ユーザー70) ●アンプ・モデリング(20種類) = 右ページ参照 ●キャビネット・モデリング(13種類) = '07 Mesa/Boogie® w/ Celestion® Vintage 30™ speakers 4x12, Acoustic® 360 1x18, Ampeg® 8x10, Ampeg® Portaflex 1x15, Direct-No Cabinet, Eden® 4x10 with horn, Fender® Dual Showman® 2x12, Hiwatt® Custom w/ Fane Speakers 4x12, Marshall® 1969 Straight w/ Celestion® G12-T70 4x12, SWR® Basic Black 1x15, '57 Fender® Tweed Deluxe Reverb® 1x12, '59 Fender® Tweed Bassman® 4x10, '63 Vox® AC30 Top Boost w/ Jensen® Blue Backs 2x12, '68 Sunn 200S w/ JBL-Lansings 2x15 ●エフェ

クト(72種類) = ヴォリューム(DigiTech® Full Range, Volume Pedal)、ワウ(Dunlop® Cry Baby™ Wah, Vox® Clyde McCoy™ Wah)、コンプレッサー(Boss® CS-2 Compressor/Sustainer, DigiTech® Compressor, MXR® Dynacomp™)、ノイズ・ゲイト(DigiTech® Auto Swell Gate, DigiTech® Noise Gate)、歪み系(Arbiter® Fuzz Face, Boss® DS-1 Distortion, Boss® MT-2 Metal Zone®, DOD® 250 Overdrive/Preamp, DOD® Classic Fuzz™, DOD® Gonkulator Ring Modulator, Demeter™, Fuzzulator™, DigiTech® Death Metal™, DigiTech® Grunge®, DigiTech® Redline Overdrive, Electro-Harmonix® Big Muff π®, Guyatone Overdrive OD-2, Ibanez® TS-808 Tube Screamer™, Ibanez® TS-9 Tube Screamer™, MXR® Distortion +,

ProCo Rat™, Roger Mayer Octavia, Voodoo Labs Sparkle Drive)、コーラス(Boss® CE-2 Chorus, DigiTech® Dual Chorus, DigiTech® Multi-Chorus, TC Electronics® Chorus)、フランジャー(DigiTech® Flanger, DigiTech® Triggered Flanger, Electro Harmonix® Electric Mistress™, MXR® Flanger)、フェイザー(Electro Harmonix® Small Stone™, MXR® Phase 100)、ピッチ・シフター(Boss® OC-2 Octaver™, DigiTech® Detune, DigiTech® IPS, DigiTech® Pitch Shift, DigiTech® Whammy™)、ウィブラト/ロータリー(DigiTech® Rotary, DigiTech® Vibrato, DigiTech® Vibro/Pan、トレモロ(Vox® Bias Tremolo)、エンヴェロープ(DOD® FX25 Envelope Filter, DigiTech® Auto Yah™, DigiTech® Envelope Filter, DigiTech® Step Filter, DigiTech®

Synth Talk™, DigiTech® YaYa™)、EQ(4-Band EQ)、ディレイ(Analog Delay, Boss® DM2 Analog Delay, Digital Delay, Echoplex™ Tape Echo, Maestro™ EP-2, Modulated Delay, Pong Delay, Tape Delay)、リバーブ(EMT® 240 Plate Reverb, Lexicon® Ambience, Lexicon® Hall, Lexicon® Room, Lexicon® Studio) ※文章中の社名および商品名は、各社の商標または登録商標です ●ドラム・マシン(60パターン) ●ルーパー機能(最長20秒) ●Cubase® LE録音・ソフトウェア付属 ●専用パワー・サプライPS0913 B付属 ●サンプリング周波数: 44.1 kHz ●同時使用エフェクト数=10 ●サイズ=445(幅)×222(奥行)×64(高さ)mm ●重量: 約2.8kg(パワー・サプライ除く)

アンペグから、レクチ(!?)まで!

20種類にもおよぶ名機のモデリングをチェック

BP355の最大の特徴と言えるのが、なんと、20種類にもおよぶベース・アンプの名機をモデリングしている点だろう(ギター・アンプも入っている!)。ベースの定番であるアンペグをはじめ、トレース・エリオットやSWR、アッシュダウンなどなど。さらに、うれしいのは、そのアンプを鳴らすキャビネットのモデリングまで合計13種類を搭載していること。これにより、“アンペグのヘッドをエデンのキャビで鳴らす”という、なかなか実験できない夢の

コラボレーションも可能なのだ。

IKUO:キャビのモデルを変えただけでも、かなりトーンは変わりますね。なので、組み合わせてサウンドを作り出す楽しさがあります。実際、これだけのヘッドとキャビを買うことは不可能に近いですから(笑)。音的には、アンペグのローBの出方は、えらく気持ちよかったですよ。ローが太いから、このアンペグの音を基準にしてしまうと、他のモデリングは低域が足らなく感じてしまうほど気持ちいいですよ(笑)。



↑このボタンを押すことで、瞬時にエディット・モードに突入してくれる。“まず、直感で選んで、そこから作り込んでいくのが手取り早いエディット方法だと思います”(IKUO)

表示名	モデリング・アンプ	IKUOチェック!
RCKSVT	Ampeg® SVT	SVTにも、クラシック・シリーズからPROシリーズまでいろいろあると思いますが、どちらかと言うとモダンなタイプのサウンドですね。ちゃんとローがしっかりと鳴ってて、ハイが抜けすぎないで、ややドンシャリ気味な、近年のモデルに近い感じがします。往年のアンペグのようなカリッとした感じではなく、近年のタイプに近いんじゃないですかね。とてもローが出て気持ちいいです。ローBの鳴りがすごく太いので、モダンなタイプのロックにパッチリ合うサウンドじゃないでしょうか。
ASHDWN	Ashdown™ Bass Magnifer	全体的にバランスよく鳴ってくれるサウンドです。キャビネットはデフォルトで試しているんですが(エデンに設定される)、SVTよりもツイーターが鳴っているような感じでハイが出てくれます。アッシュダウンというよりも、エデンっぽさも感じられるサウンドですね。ハイファイなイメージのトーンが出てくれて、スラップで使えそうなジャリッとしたハイが出てくれます。そういう意味で、オールマイティなジャンルで使えるサウンドですね。
BASSMN	Fender® Bassman®	これは、もう“フェンダー・ベースマン”のイメージ通りのサウンドですね。ヴィンテージ系のアンプをモデリングした音だからなのか、ローBのスケがいつもひとつずつ(笑)。でも、逆にSVTの反対で、ミッドがすごくよく出ています。そこにジャコブ・アームに仕込まれているチューブの歪みを感じさせてくれるので、ヴィンテージっぽい空気感のある歪みが感じられて、これは気持ちがいいです。アンプで歪んでいる音がありますね。
SOLAR	Sunn® 200S	こちらも、チューブ・アンプで歪ませたサウンドがします。ものすごくミッドが出ます! ベースマンに近いんですが、よりミッドを押し出したトーンで、SVTとは正反対のサウンドです。ロー・ミッド、ハイ・ミッドが、すごく強い。ローBがしっかりと鳴るといっても、高域にかけてのスケがすごくいいサウンドになっています。
STELAR	SWR® Interstellar Overdrive™	SWRといえばマークス・ミラーですが、やはりスラップにピッタリのサウンドです。ハイが、ツイーターで再現されているサウンドがするんですが、これ、デフォルトではキャビネットがダイレクトに設定されているんですね。だからなのか、ツイーターの感じはアッシュダウンを選んだ時のほうが出ている気はします。これを、エデンのキャビネット・シミュレータに接続すると、まさにアンプを通った音になります。ハイのスケが抜群によくなるから、スラップに向いています。SWRとエデンのキャビというの、ある意味、黄金の組み合わせだと思いますよ。
COMNDO	Trace-Elliott® Commando™	ハイからローまでバランスよく出るサウンドです。ローBもしっかり出てくれて、ハイ・ポジションを弾いた時も、ちゃんと鳴ってくれます。ミッドも出ているし、どこかの音域にかたよっている感じはないフラットな音ですね。トレースという、もう少しプリーミーなイメージがあったんですが、これは、すごくハイも出てくれるバランスのいいトレースですね。
BOMBER	Ampeg B15	このモデルは、レコーディングの定番でもあるコンボ・アンプですね。オールマイティなアンプのモデリングですか。サウンド的には、ミッド・レンジがしっかりと出てくれて、こういう音はどういうふう加工しても、しっかりとスケしてくれる音なんです。フレット・ノイズも、ちゃんと聴こえてくれます。これは、けっこう好きな音ですね。エフェクターで歪みを足しても、しっかりとスケしてくれるだろうし、ポプスからロックまで、これを元にすればなんでも行けますよ。ベースックに、しっかりとミッドがある音は、すごく使いやすと思います。これ、いいですね。
HIWTAG	Hiwatt® Custom 50	これは、ギター・アンプにベースを突っ込んだ、そのままの音ですね(笑)。あまりローはない感じで、ミッド・レンジが強力に出ています。あまり歪んではいませんが、すごく個性的で独特の雰囲気モデリングしています。サスティンも、しっかりと稼働しているし、そういう部分でちゃんとシミュレートされているんじゃないですかね。
BOOGIE	Mesa Boogie® 400+	これは、見事にハイがないですね(笑)。ややコモットした感じのトーンで、ローはSVTほどなく、ロー・ミッドの成分が多いです。メサ・ブギーという、もう少しキラキラしたチューブ感があるサウンドをイメージしていましたが、これはそんなにキラキラした感じはないです。キャビのデフォルトがSVTと同じなんですけど、SVTと比べるとローよりもロー・ミッドに寄ったサウンドです。
BASIC	SWR® Basic Black	これはコンボ・アンプです。ジャズベを使って、これで鳴らすとマークスになれる音がしています。こちらは、ツイーターを再現してくれているようなハイがよく出ています。先ほどのSVTと同じ方向性ではありませんけど、あまりローがない感じで、かなりカリカリな方向のサウンドです。これがマルチのおもしろいところだと思うんですが、SWTと比べると、けっこう極端な方向性がある、同じベース・アンプとは思えないですよ。
DUALSH	Fender® Dual Showman™	かなりモダンなサウンドがします。ハイの立ち上がりもしっかり出てくれます。ローもミッドも出てくれて、意外にベースらしい音を出してくれます。スラップもスケしてくれるんですけど、何か足らないような気はします(笑)。これ、ギター・アンプなんですか? それにしては、ベースで使ってもバランスは悪くないですね。チューブっぽくなくて、トランジスタ的なサウンドに感じられました。アクティヴのベースと合わせるというかもです。
DEMTER	Demeter™ VTBP-201S	デメターと言えばエフェクターのイメージがあったんですが、アンプもあるんですね。デメターは、コンプが有名ですよ。サウンドは、ローもミッドも出てくれて、すごくバランスのいい音があります。SVTほどローが出るわけじゃないんですが、わりと僕がアンプで作る音に似ているかもしれません。マークベースに近いかな?
57DLUX	'57 Fender® Tweed Deluxe™	完全にギター・アンプに突っ込んだ音です(笑)。ジャコブ・アームで、"ポフポフ"ってスピーカーがなってしまふ感じが、うまく再現されています。ギター・アンプにベースを突っ込むと、低音を鳴らしきれなくて、無理矢理なギター・アンプのキャビの感じが再現されています(笑)。
65TWIN	'65 Fender® Blackface Twin Reverb®	おっ、こちらは、ちょっとオーバーロードしていますが、ちゃんとローが出てくれます(笑)。もちろん、ギター・アンプなのでバランスがいいとは言えないですが、ハイはキレイに出るんですよ。でも、ローBを出すのと歪んでしまうというか、ちょっと許容範囲ではない感じが(笑)。1~4弦は、ベースとしてのローも出てくれるので、ギター・アンプに突っ込んだ感じは、そんなに強くないですよ。意外と新しい発見があるかもですよ。
77MSTR	'77 Marshall® Master Volume	もう、かなり歪みまくってます。いいですね。マーシャルって感じ。ローはないですが、歪みが気持ちいいです。これは、ベース・ソロとか飛び道具として使えるかもしれないですね。完全にギター・アンプの音があります。
TOPBST	'63 Vox® AC30 Top Boost	ギター・アンプとしては定番もののアンプですね。これをベースで使うと……ベース本体の特性がよく出てくれるサウンドですね。ローがオーバーロードしている感じが、いかにもギター・アンプに突っ込んで鳴らしたサウンドです。
RECTFR	'01 Mesa Boogie® Dual Rectifier	おー、これは、いいじゃないですか(笑)。まさに、レクチの音ですが、もはや完全にギターの音です。ふつうにギターを通すと、いい音がしそうですが、ベースで使うならソロ用ですね。きめ細かい歪みでサスティンもあるので、ベース・ソロで使えるんじゃないですか。
DIGSLO	デジテック カスタム・アンプ“ソロ”	これもギター・アンプっぽい歪みですね。これにローがあると、すごくカッコいいサウンドになると思います。ミッドのある歪みなので、ここにドライ音が混ざられると、すごくいい感じになるんじゃないですかね。エフェクターいらすの歪みです。
DIGCLN	デジテック カスタム・アンプ“クリーン・チューブ”	ローが少し足りないですが、ちゃんとハイが出てくれます。どちらかと言うと、ドンシャリ寄りなトーンですね。SWRに近い方向性で、そこから低域を削った感じかな。スラップには適している音だと思います。ただ、ハイの雰囲気ツイーターで出ている感じというよりは、EQで上げたラインっぽい方向性ですね。
DIGGAN	デジテック カスタム・アンプ“ハイ・ゲイン”	これも、ギター・アンプっぽい歪みですね。マーシャルっぽいかな? 完全にソロ用という飛び道具的なサウンドです。

定番から飛び道具、オリジナリティあふれるものまで 多彩なエフェクトをハイパー・チェック!!

アンプ・モデリングの全機種チェックに続いては、搭載された72種類のエフェクターの中から、気になるエフェクトを試奏してもらった。名機をモデリングしたエフェクトもあり、これまた興味深いぞ!

■**アイバニーズ TS-9 & TS-808**(チューブ・スクリーマー)=どちらも同じ方向性のトーンで、TS-9は、やや歪みが増えるサウンドで、アンプをブーストさせたようなイメージですね。それに対して、808はやや歪みが成分が増した感じです。音的には、とてもいい音だと思います。EQで、ローを足していくといいかもしれませんね。

■**ヴァードゥー・ラボ Sparkle Drive**=チューブ・スクリーマーと同じ方向のトーンです。そんなにクセもなく、ナチュラルなオーバードライブですね。これは、ドライ音とドライブ音を混ぜるようなコントローラーが付いているので、ローもしっかり出せるし、使えますね。

■**ボス MT-2**(メタル・ゾーン)=これは、いいですね! エフェクト・コントロールに低音のEQが付いているので、足りない部分を足せるし、歪ませると不足してくる低域が補えるんですよ。やっぱりメタル・ゾーンって、ベースに合うんですね。

めっちゃ歪みますね。

■**デジテック XMS**(デジタル・コンプレッサー)=マルチ・バンド・コンプレッサー感覚で、EQに近い使い方ができるモデルですね。それほどエグくはかからないと思いきや、アタックのコントローラーをあげていくと相当イキます。

■**ボス CS2**(アナログ・コンプレッサー)=本物のモデルは、じつは僕もレコーディングで使ったりしています。ギター用なんですけど、レコーディングではEQを使えば補正もできるので使えるんですよ。これは、独特のパコパコした感じが似ていて、本物よりナチュラルにかかりますね。

■**MXR Dynacomp**(アナログ・コンプレッサー)=わかりやすいです! ダイナコンプの音です。でも、本物って、レベルを上げていくと、すごいノイズが出てしまうんですが、これはノイズがまったくないから奇跡的です(笑)。こちらも、本物よりエグくなくナチュラルなかかり方ですね。

■**EQ**=まず、4種類のEQから選ぶんですが、これで方向性は決められるので音作りがしやすいですね。僕は、SCOOPが作りやすいかな。フリーケンシーが、めっちゃめっちゃ細かい部分まで設定できるのが、すごい!



↑各エフェクターのコントロールは、ノブを回して行なう。モデリング・エフェクターの場合は、モデリングされたエフェクターによって、各ノブの項目が変わるのがおもしろい

■**TCエレクトロニック・コーラス**=ベースで使うコーラスとしては、いちばん有名なモデルじゃないですかね。これを使ってスラップするというのが、一時期の王道の組み合わせだった。かなりソックリにモデリングされていますね。ベースの音域に対して効きがいいので、ハイもしっかり出てくれるし、これは使えます。フュージョンっぽいスラップをする時は、これですよ。

■**フレットレス・シミュレータ**=これは、かなり強くかかるタイプですね。フレーズによってフレットレスっぽくなったりするので、そのあたりを考慮して使うのがオススメです。

サウンド・シミュレーション あのIKUOサウンドをBP355で作ってみた!

① IKUOメイン・サウンド風!

COMPRESSOR	DISTORTION	AMPLIFIRE	EQUALIZER
Model→DYNCOMP Sensitivity→61 Output→97	Model→SPARK Gain→93 Tone→91 Clean→58 Volume→67	Model→BOMBER キャビ→AM 1×15 Gain→58 Level→73	Model→SCOOP Bass→8 MidFreq→1500Hz Midrng→5 Treble→10 Presnc→1

①僕がいつも使っているサウンドです。基本的に、ヘヴィ・ロックで使うローBという低い音域から、高い音域の3フィンガーで速弾きする音まで対応するという、すごく難しい音作りです。フル・レンジで音が出てくれるトーンで、歪んでいるにもかかわらず、広がりがすぎず、ファンクでも弾けるしスタックートのプレイもできる音です。アンプで歪ませているというよりも、ディスト

ーションを使ったキレイな歪みですかね。そこに、なおかつドライ音を混ぜているので、歪んでいるけどスラップもいけます。EQでミッド・レンジを上げていますが、ちょうどそこが、ドライ音にかぶさる歪み音がいちばんキレイに聴こえる箇所なんです。そこを突くことによって、歪みの成分も増やせるし、速弾きをした時にツブ立ちがよく聴こえます。それとコンプを、かなり強くかけて、

② コーラスを使った懐かしのスラップ・サウンド

COMPRESSOR	AMPLIFIRE	EQUALIZER	CHORUS
Model→DYNCOMP Sensitivity→61 Output→97	Model→STELAR Gain→45 Tone→74	Model→SCOOP Bass→8 MidFreq→3500Hz Midrng→5 Treble→0 Presnc→0	Model→TC CHS Post Amp Speed→25 Width→75 Intensity→75

ローBの広がりを防いでいます。コンプを使うことで音程感を保ちつつ、積極的なスラップのアタックや速弾きのツブ立ちをキレイに出すことが可能です。こんなに強くダイナコンプを使っているのにノイズがないのが奇跡です(笑)。

②懐かしのフュージョン的スラップをするのにピッタリの音です。TCのコーラスを使うことがポイントなんですけど、

これを使うだけで“あの時代”の雰囲気が出てきます。クリーン・トーンを作りつつ、コンプレッサーを強めにかけて、SWRのアンプ・モデリングを使っているので、かなりハイが出ています。あとは、ローをEQで足してハイ・ミッドを突いている設定です。スラップを使うようなレコーディングがある場合は、これに近い音を作ったりします。

総論! ハイパー・ベーシスト=IKUOの評価は!?

IKUO:かなり幅広く音が選べるモデルになります。そういう意味では、初心者というより、ある程度、自分で出したい音の目標が見えているベーシストに、すごく使いやすいモデルじゃないですかね。あとは、家でデモを作る時なんかは、オーディオ・インターフェイスも付いているし、すごくいいですね。いろいろ試せるし、とにかく頼もしいのはノイズがないということでしょう! クラシカルなエフェクターって、本物だとすごくノイズが乗るじゃないですか。それが、ノイズ・ゲイトのおかげで、ごく自然な感じでノイズを皆無にしてくれているんですよ。

モデリングの特徴としては、あまりデフォルメされすぎてないタイプですね。モデリングというと、極端にマネタエグい感じのトーンになったりするタイプも多いんですが、このモデルはすごくナチュラルな感じでした。素直なサウンドが特徴のマルチですね。ツマミの感じとかアナログっぽいところも使いやすいですね。

それと、いちばん大切なことは直の時との音の違いだと思うんです。原音よりも音が劣化してしまうエフェクターってあるじゃないですか。でも、このモデルは、エフェクトを使った時に、よりたぐましさが増してくれて、嫌味も音やせている



感じもなく、ローの感じも減っていないのが使えるマルチだなと思いましたね。もっと時間をかけて追求すれば追求するほど、このモデルのよさが出てくるかもしれないですね。